

石老山に登って

S . F

2008年12月7日、日曜日に山仲間アルプの方々と石老山に清掃登山に行きました。前期に一度登る予定だったのですが、雨天で中止となってしまったので今回が初めての登山でした。気温は低かったのですが、雲ひとつない青空の日で景色がよく見渡せました。

今回の登山には立教生が私を含めて11人と多く、サポートは学生が主体となって行ないました。3つの班に分かれ、私の班は二名の弱視の方と、会員の方、5人の立教生でした。立教生は宇野さん、鈴木君、榎並君、朴さん、私です。下りが大変だということで、山に入ればばらくは女子が前のサポートをしました。私は最初、弱視の森谷さん(女性)のサポートをしました。森谷さんはとても健脚で、見えている私でもふらついてしまうような道をすいすいと登っていきます。リュックに付けた紐を持って、私の動きで足場の高低差を把握し、ステッキでバランスを取り、体を支えていました。私は砂利道やぬかるみ、階段などの情報をできるだけわかりやすいように伝えていましたが、それが要らないんじゃないかと思うときがあったほどです。登山中はたくさん話しました。紅葉が青空によく映えていて、そこだけ夕日のように赤々と光っているところを見つけて写真を撮ったり、登山計画に載っていたように巨岩奇岩が多く、近くに立っている解説を読んだりなどしました。自然の美しさや壮大さを、私はあまり上手には伝えられませんでした。興味深く聞いてもらえて嬉しかったです。途中からは男子に前のサポートを任せました。今度は後から足場の状況を言ったり、大きな段差を登るときに支えたりしました。山頂が近くなるにつれて急になり、少し弱音も吐きましたが、なんとか山頂までたどり着きました。

山頂から見る景色は言葉では言い表せません。遠くの山間から雪を被った富士山が見えました。手前の山は赤、黄、緑のグラデーションが鮮やかで、富士山との対比がはっきりとしていました。みんなが口々にすごい、きれい、などと感想をいい、しばらく富士山のある風景を焼き付けていました。その後昼食をとり、記念撮影をして山を下りました。

下りの方が見えないと大変だと、松井さん(男性)は言っていました。そのため、ステッキを使って落差の見当をつけ、大きな段差は言ってもらっていました。松井さんもとても健脚です。低い段差などはジャンプして下りたりして私たちを驚かせたりしました。帰りは急な岩場やぬかるんでいるところが多く、両手を使って下りるためにステッキを後ろにいる人に預けて、紐からも手を放して私たちの情報と経験を頼りに下りたりもしました。歩きやすい道を探すことが難しく、すぐ下だけでなく先も見なくてはいけない、とこの時に思いました。

今回の登山では、初めてサポートをしてみて、なんとなくですが感じをつかめたと思います。天候にも恵まれていたので、きれいな景色を胸に焼き付けることができました。清掃登山にもかかわらず、登山マナーが行き届いてる石老山ではゴミはほとんど拾えずに、自分の昼食のゴミなどを袋に入れることになったのは、良いことなのですがちょっと気が抜けました。今回は、サポートする側なのにサポートしてもらった場面もあったので、次回はもっと頼りになるサポーターになれるように頑張りたいと思います。また、後半はほとんど男子と班のリーダーの方にサポートを任せてしまったので、もっと積極的にやりたいです。